

# 保育所における自己点検・自己評価

- A : たいへん良い  
 B : 良い  
 C : 一部検討を要する  
 D : 改善を要する

項目	内容	評価				意見・改善策	
		A	B	C	D		
保育 ついで 目標に	(1) 保育目標を具体化し、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。		○			保育目標の具体化にむけて活動計画を作成している。乳幼児の発達、家庭や地域の状況などを加味して考えている。また、地域の親子支援事業や家庭支援、長時間保育にも触れている。職員の意識向上を更に目指したい。	
	(2) 設定した重点目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。		○				
保育に ついて	(1) 指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。		○			クラスごとに十分検討し、作成している。また、全体でクラスの指導計画を検討している。 各クラスの活動計画の中に、環境構成を意識していけるよう盛り込んでいる。会議でも検討している。	
	(2) 環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。		○				
行事に ついて	(1) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。		○			行事はねらいと取り組みを、何度も検討している。また、保育が行事に追われ、行事のみに焦点を当ててしまわないよう、日常の遊び、生活をしっかりと考えていきたいと思っている。行事では各年齢の発達が見えるような内容となるよう努力している。	
	(2) 乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。		○				
経営・ 組織	分掌・ 体制	(1) 能率的、合理的な運営組織になるよう努力しているか。		○			個々の努力に頼らず、職員全体で能率的な仕事ができる組織作りを今後も目指していきたい。 個々が職責を理解し、十分力を発揮していきことが大切と考えている。保育の質の向上、能率的な職場作りに対して、一部の職員が意識していくのではなく、職員全体で考えていく必要があると考えており、リーダー会議でも定期的に検討している。
		(2) 職務内容を理解し、協働できる体制になるよう努力しているか。	○				
		(3) 割り当てられた係や仕事を完遂する努力をしているか。	○				
	運営	(1) 自己の職責を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか。		○			協力は十分に行えている職員集団であるといえる。反面、助言に関しては個人差があるのが現状である。全体に引き上げていきたい。 保健計画に基づき行っている。平成29年度は区役所の看護師による手洗い指導を受ける機会に恵まれた。
		(1) 年齢別・クラス経営に生かされるような、具体的保健対策を行っているか。		○			
	保健・ 安全指導	(2) 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。	○				警察・消防署の指導を受けながら実施している。また、実施した内容を会議にて検討し、見直しと改善を行っている。 園だより・給食だより・保健だよりで行っている。必要な情報を提供し、家庭での意識を高めることなどをねらいにしている。 保育課・区役所・保健所・警察・消防・療育センター・児童相談所などの関係機関や、民生児童委員・町内会と連携を図っている。
		(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。		○			
		(4) 乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。	○				
	研修	研修	(1) 資質向上及び自己啓発に努めるための研修会には積極的に参加し、自己研鑽に努めているか。	○			平成29年度は外部研修に延べで約160人が参加。園内研修は定期開催している。研修の大切さは全体に理解しているものの、参加数には個人差はある。更に意識の向上を図りたい。ボランティア活動へも多くの職員が参加している。
(2) 研修会、講習会、地域におけるボランティア活動に興味を持ち、自ら積極的に参加しているか。			○				

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
情報について	(1)乳幼児や保護者に関する個人情報を通正に取り扱っているか。	○				個人情報マニュアルに基づいて取り扱っている。また、職員間で周知徹底している。
	(2)各表簿は、適正な時間・方法で作成、処理しているか。		○			作成と処理には職員の能力に差がある状況ではあるものの、定期的に検印確認日を設け、意識している。
施設・設備	(1)施設内外・設備の安全点検を計画的に行い、不都合が生じた場合には迅速な報告・対応・処置を行っているか。		○			実施している。更に職員一人一人の意識を向上させ、ヒヤリハット事項の気づきなどに繋げていけるよう、点検を強化したい。
	(2)不審者等に対する周到な配慮を行っているか。	○				不審者訓練を年間2回に実施。訓練の反省を職員会議で行ったことで、全体の意識向上に繋がった。
開かれた保育所づくり	家庭・地域との連携	(1)保護者や地域の人たちと連携しているか。	○			保護者会とも共同して、地域の一斉清掃や夜回りといった町内会行事に参加している。また、小・中学校の職業体験や地域の老人施設と園児の交流を図っている。新興住宅地で保育園が主体となって行う行事や伝承活動もある。夏まつり・カ士を招いての餅つき・移動動物園などは多くの地域の親子に非常に喜ばれている。
	子育て支援の連携	(2)乳幼児の興味や関心に基づいて、地域社会・その他の施設と交流しているか。また、その意義を理解しているか。	○			保育園併設型の地域支援センターがあるという最大のメリットを生かし保育園と協力して地域の子育て支援を行っている。また、黒川町内会・はるひ野町内会、民生児童委員と連携して地域の出張支援を積極的に行っており、職員が1年間担当を決めて行うことで学びの機会としながら、全体への啓発に繋げている。
		(3)地域におけるボランティア活動に積極的に参加しているか。また、地域の文化や生活に触れているか。	○			
	子育て支援の連携	(1)地域の子育てセンターとして、保育園の実績や状況に応じながら事業を計画し、積極的に実施しているか。	○			保育園の行事に参加してもらいながら関係作りを行っている。保護者の意見は保護者会役員会で聞くことに加え、行事の後に感想用紙を配布して意見の集約を行っている。
		(2)地域に住む子どもどうし、あるいは親子と一緒に遊ぶことができるような場の設定を行う意義を理解しているか。また、交流を図ることに前向きであるか。	○			
	評外価部	(1)地域の保育園理解に積極的に努めているか。また、保護者の意見を知る努力をし、相互の連携を図り、保育に反映させているか。	○			